

南太秦だより

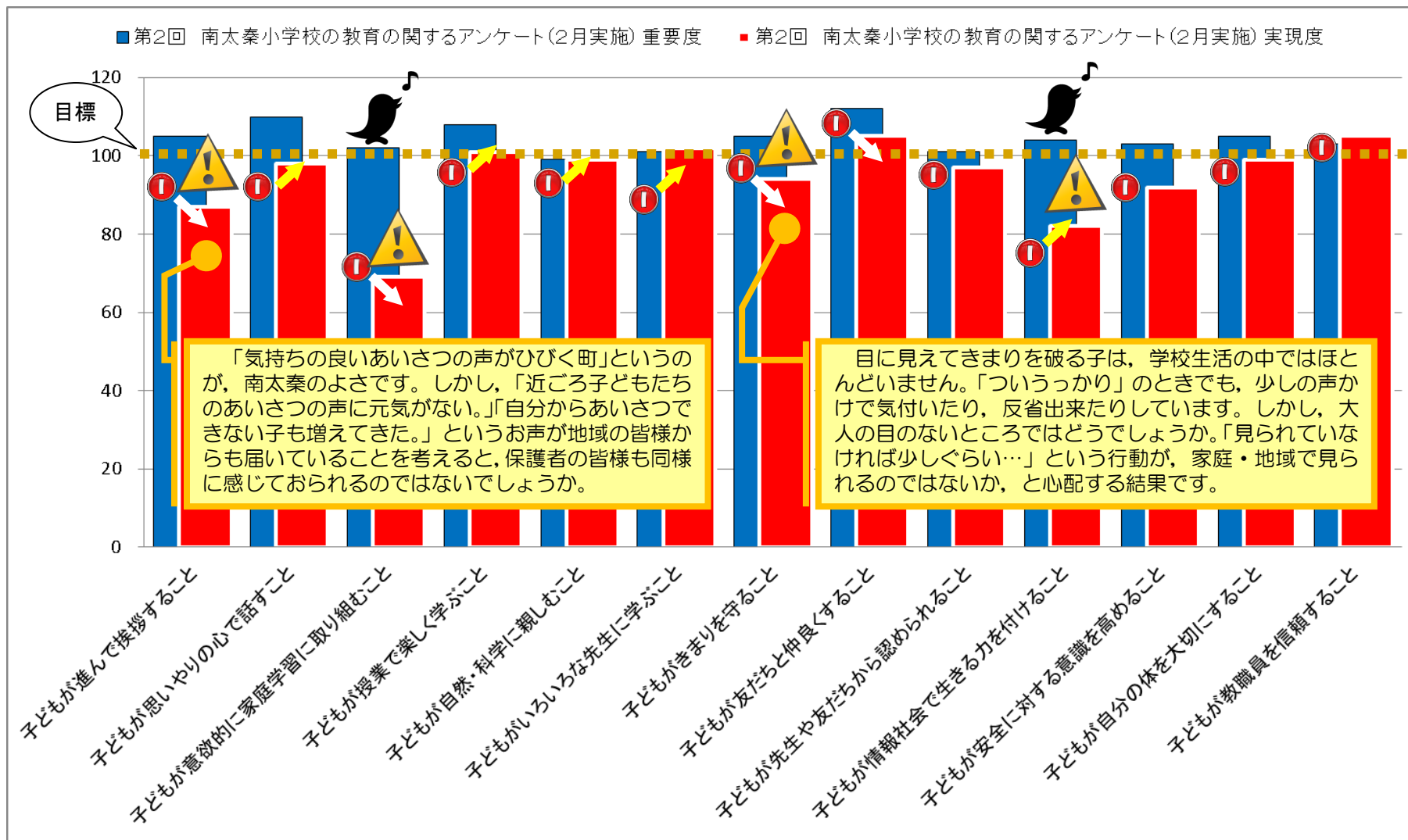
平成27年度後期
学校評価のおしらせ

全4ページで、学校評価の結果をお知らせします。ぜひ
ご一読いただき、今後の取組にご協力いただきますよう
よろしくお願いします。

平成28年3月22日
京都市立南太秦小学校
校長 清水 淳一

南太秦 前進・充実のキーワード

「自主性と自律性（自ら律する）を育む」です。



このページのグラフは、保護者の皆様にご協力いただいた「第2回南太秦小学校の教育に関するアンケート(2月実施)」の結果をまとめたものです。

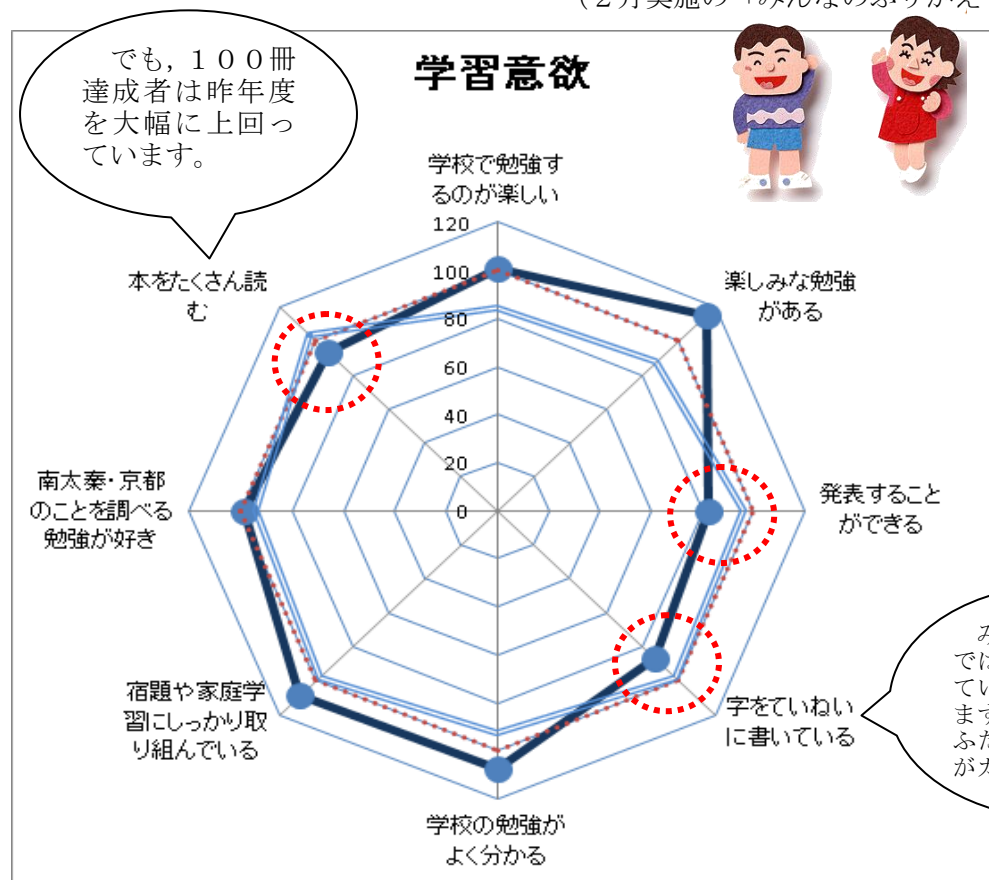
⚠マークの結果からは、依然として「自分から」「進んで」という意欲面に弱さが残ることが感じられます。また、学校で学んだきまり、あるいはできている判断を「汎化する」(いつでも・どこでも・だれとでも)力に弱さがあるのではないかと考えます。3ページに、次年度の取組についてまとめます。

🐦マークの項目は、まだ実現度が低いですが、重要度は上昇しています。学校の取組に対する保護者の皆様の共感・協力の輪がさらに広がりつつあることを感じます。一朝一夕に結果はでないかもしれませんが、「未来に生きる力」を子どもたちに身に付けさせるためにも、共に粘り強く取り組んでいく必要があります。

※ ⓘマークは、前期調査の実現度位置を表しています。矢印は、実現ポイントが上がったものと下がったものに付しています。

達成ポイントの微減が気になる「あいさつ」「返事」「言葉づかい」・・・人とのかかわり、つながりがそこから始まります。“やらされるもの”ではないのです。習慣化が大切です。

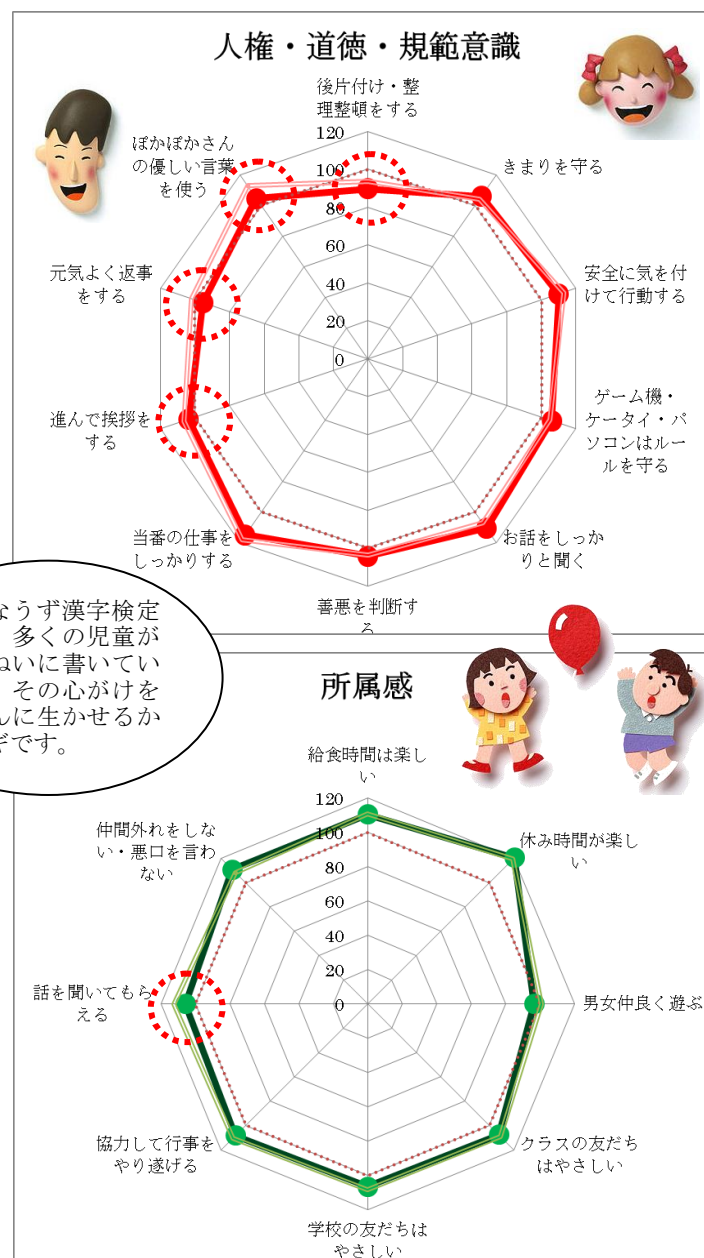
(2月実施の「みんなのふりかえりシート」の集計結果をもとに、教職員で分析しました。目標は100ポイントです。)



みなうず漢字検定では、多くの児童がていねいに書いています。その心がけをふだんに生かせるかがカギです。

二重線が前期、太線が今回の結果です。「学習意欲」の各項目が全体的に広がりを見せていることは好ましい傾向です。特に授業への意欲、家庭学習への意欲は高まっていると感じます。まだすべての子に浸透していないかもしれませんが、宿題の改革や自学の取組、みなうず漢字検定などをきっかけに、学習の方法を自分で考えようとする子が増えてきていることはまちがいないと思います。

一方で、○で囲んだ項目は、前回よりもポイントを下げました。授業中に発表しようとする意欲が、高学年でぐっと下がるのが気になります。話すこと・聞くことに始まり、高学年ではプレゼンテーション力・討論力にまでつながっていくことが求められています。次年度の大きな課題です。



保護者アンケートの結果と重なる部分かもしれませんが、挨拶や返事、言葉づかいの項目のポイントが微減しています。ここでも高学年の回答が非常に消極的でした。

SNSの急速な拡がりの背景には、その「匿名性」や「仮想性」を心地よく感じる人が増えている、言い換えれば「直接関わるのは面倒だ」という風潮があるとも言われています。しかし一見「面倒」にも思える人とのかかわり、つながりから、判断力・責任感・人間関係調整力などがついていくのです。「あいさつ」「返事」はその入口、そして「言葉づかい」は最大の思いやりとなり得ます。別に特別なことではない、いつも当たり前にやってるよ、と言えるような習慣化が必要だと思います。

「担任に話を聞いてもらえていない」と感じている児童が前回より少し増えました。そのようなさびしい、あるいは厳しい回答の原因をすべての担任が真剣に考えています。

次年度に向けて

「あいさつ」の大切さを、改めて子どもたちと一緒に考えていきます。

- 右の詩は、小学生が書いたとだけ分かっているものですが、実に端的に「あいさつ」の本質をとらえています。「あいさつ」＝「自分を動かすエネルギー」として指導していきます。
- 子どもどうしが案外「あいさつ」していません。出会った友だちに、教室に入るときに、元気よく声が出せるよう働きかけます。
- 「行きたいな」と思う学校、「はやくやりたいな」と思う授業、「会いたいな」と思う先生、わたしたちの教育活動、居場所づくりそのものが気持ちの良い「あいさつ」につながる、と考え「通いたくなる」「通わせてよかった」学校づくりをさらに推進します

あいさつ
「おはよう」というと目がさめる
「いただきます」というとおなかがい
「いってきます」というとげんきになる
「ありがとう」というときもちがいに
「ごめんなさい」というとほっとする
「おやすみなさい」というといゆめみられる
あいさつってうれしいな

「自主性」「自律性」は人とのかかわりの中で育ちます。体験活動や協働の学びをさらに一層、授業の中に取り入れていきます。

- 「ひとり学び」が確かなものとなるように、授業の入口では学習問題をしっかりとめ、出口では考察・まとめを確実に行います。
- もっている知識や技能を活用したり、試行錯誤を重ねたりして問題解決を図る楽しさは、「みんな学び」（協働）によって深まります。すべての担任が「みんな学び」を的確に授業の中に位置付けていきます。
- 道徳教育や特別活動、地域の人やさまざまな人と交流する体験活動を通して、社会の一員として必要となる公共心や公德心、生命を尊重する心等を育てます。



平成27年度後期に取り組んできた以下の内容は、今回の方針とともに今後も継続していきます。

④ 「やらされる」勉強から「進んで取り組む」学習へ、「宿題」から「自学」へ、転換を図ります。

○ 学習成果・学習効果の実感・「見える化」を進めます。

○ 家庭と連携して情報モラル教育を展開します。(子どもの生命・健全な発達を守り抜くために、一緒に教えましょう。)

学校運営協議会 理事の皆様より（学校関係者評価）

○ **南太秦小学校の「自学を推進する」という方針を受け、児童館でも「宿題をこなさい。」と指示するのを控えるようにしました。それでも、きちんと自分から学習をするようになってきています。学校の取組が、少しずつ子どもの身に付いてきているのではないかと感じています。**

○ 校区内を通行する自動車・バイク・自転車のマナーの悪さが目立つようになってきているのを感じます。もちろん、運転者のモラルが問題ですが、子どもの安全を守るために見守り活動等大人ができることを継続していきたいと思います。

○ 理事として、3月10日（木）に行われた「お別れ集会」を参観しました。工夫がたくさんあり、教職員のていねいなご指導と、児童の成長が感じられる感動的な行事でした。子どもは1年でこんなにも成長するのか、学年が一つ上がるだけでこんなにもできることが増えるのか、と感心しました。

○ 挨拶は、「自分から心を開いている」というメッセージを伝えるものでもあります。ぜひ自分からできるようになってほしいですが、そうしにくい子にとっては「きっかけ」を与えてやる必要があると思います。照れくささや戸惑いの一線をこえる「きっかけ」です。大きな声で、笑顔で声を掛けるのも、そのために大切だと思います。

○ 昨今、不審者による被害が各地で発生していることから、「知らない人」への対応が変わらざるを得ないのを感じます。でも、見守り隊の人、近所の人、行事のときに出会う人などは間違いなく地域の人なので、しっかり挨拶してほしいと思います。

○ 6月・1月に行われる各種部会（学校運営協議会理事・PTA・教職員で行う座談会）で、保護者との交流をもっと深めていきたいです。

○ SNSの危険性は放置できませんが、中高生ぐらいになると、それを使いこなすことがコミュニケーション力の一つと見なされる時代でもあります。小学校の感受性豊かなうちに、「どういう使い方が生活を良くするか」

「好ましい人間関係に生かせるか」という視点で学習できたらいいと思います。

○ 生徒会・児童会など、自主的・自治的な活動の中で、子どもが自分の態度を見つめ直したり、人とかかわり方を考えたりできると思います。

○ きまりはしっかりと守る子になってほしいと思います。

○ **学校の先生には、聞き上手になってほしいです。自分から思いを伝えられない子もたくさんいます。大人のあたりまえが、実は子どもにとって大きな壁となっているときもあります。学校の先生には、何でも話し、相談してほしい、そのためにも、子どもの思いを引き出せる先生であってください。**

